

「台風二十三号の被災」

昨年こぞの十月二十日、とても大きい台風二十三号により、私の家は夕方ゆふぐの五時ごじごろ浸水ひたみずしました。あっといふまに水かさが増し、停電とでんになり二階へ避難ひなんしましたが、食糧じきりょうもなくラジオもテレビもない状況じきょうとなりました。

私は、生まれから洪水、地震ちきんなどで大きな被害ひがいに合ったことはなく、今までは「かわいそうだよ」と思おもいながらも、どこか他人事たにじのように思おもっていた面おもてもありました。そんな中、

今自分の家が被害ひがいにあつたことで、本当に心の底そこから自然災害しぜんさいがいは恐おそろしく、大切な物を奪さらうものだと改めて感じさせられました。家の前まえには石段いしだんがあり、少し高い所ところにあるので、私の家は大丈夫だと思おもっていたのが、まさかといわんばかりに道路だうぢが浸水ひたみずし、数分すうぶんもせず、家が浸水ひたみずした時のことは今でも覚えていま

す。
二階にがいに避難ひなんしても階段かたいだんから少しずつ水みづが増あえてきた時の恐怖こふ、水みづがひくのを待つ長い長

い沈黙の時間、それがようやく終わったのは
夜中の二時ごろでした。階下に降りると物が
そこら中に散らばり、泥がしきつめられてい
て、とても悲しくなってきました。こんな
なつた家を元にもどせるのだろうか。と
思わざるをえない状況の中、救いもありまし
た。

それは、親戚やボランティアの方々、先生
方などの支えでした。親戚が毎日のように手
伝ってくれましたが、思ったよりも大変な作

業で苦しかったです。毎日が重労働で、救援
物資をたよりの生活が続きました。それでも、
家族だけで片づけなければいけないと思っ
いたので、多くの人達が手伝いに来てくれた
時は涙があふれそうでした。人の力が何人も
集まれば、それだけ大きな力になるのだと思
いました。

この台風二十三号での経験は一生忘れられ
ないものになると思います。自然災害の恐ら
しさを胸に刻み、助けてくださった人々に対
して感謝の心を持ち続けて、これからの人生
を進んでいきたいと思えます。